

令和7年度 校内研究計画 概要

高島町立高島小学校

1 研究主題

『考える力を育む授業づくり』

～教科の見方・考え方を働かせて～

2 主題設定の理由

(1) 児童の実態から

本校の児童は、与えられた課題に対して真面目に取り組むことができる児童が多い。しかし新しいことに興味を示して楽しみながら取り組む一方、主体的に学習に取り組む姿勢はまだ十分に備わっていない。自分自身で課題を見つけたり、解決方法を見いだしたりすること、主体的に「考える」ことにすべての児童がじっくりと取り組んでいるとは言えない現状である。

授業において全員が課題に向き合い、粘り強く多面的に考える経験を積むことによって、学習面だけではなく生活面においても一人ひとりの児童が主体的に行動し、その子らしさが発揮できることをねらい、「考える」ことを主軸にした本主題を設定した。

(2) 研究の成果と課題から

本校では、子どもたちの主体的な学びを迫及し、自ら課題意識をもって参加する授業づくりに取り組んで来た。「課題設定・対話・ふり返し」を重点に研究を進め、授業の中では主体的に考える子どもの姿や学習を深める対話、自己の成長をみとるふり返しをする姿が少しずつ見られるようになった。

そこで『考える力を育む授業づくり』を研究主題に掲げて、これまでの「課題設定・対話・ふり返し」の重点を生かしながら研究を進めた。一昨年度より「カリキュラムマネジメントを取り入れた授業づくり」を取り入れた。自己の学びや成長を実感することで、より主体的に学ぶ姿が見られた。昨年度からは、それらを授業や学校生活の様々な場面で取り入れられるようにしてきた。授業実践においては、各教科の見方・考え方を働かせた授業づくりを推進して研究を行った。重点に「考えてやってみる」「伝え合う」「ふりかえる・つなげる」の3つを掲げ、児童に変化の大きい時代を生き抜くために必要な力を身に付けさせることを目指し、本主題を設定して2年目の研究となる。

(3) 今日的課題から

現代社会は、予測困難な時代であると言われている。その背景には、科学技術や環境の変化など様々なめまぐるしい変化があげられる。特に人工知能（AI）の飛躍的な進化は、雇用の在り方や学校において獲得する知識の意味にも大きな変化をもたらすと予測も示されている。

これからの時代に生きる子どもたちには、様々な情報を見極めて知識の概念的な理解を実現し、情報を再構成することなどして新たな価値につなげていくこと、複雑な状況変化の中で目的を再構築することなどが求められると考えられる。今後、子どもたちが社会に出て、様々な問題や壁にぶつかったとき、自分で考える力や、人と共に対話して学ぶ力が生きることを目指し、本主題を設定した。

山形県教育委員会では、今年度から第7次山形県教育振興計画が施行されている。第7次山形県教育振興計画では、「ウェルビーイングを目指し、多様性あふれる持続可能な社会の実現を担う山形の人づくり」を目標とされている。その中でウェルビーイングを目指すために、自分の力を活かし前向きに挑戦（チャレンジ）していくことが重要であるとされている。そこに示されている「目指すべき行動や考え方」や「県民みんなでチャレンジ」を念頭に置きながら校内研究を進めていきたい。

3 めざす子どもの姿

- 自ら課題意識をもって考える子ども (考えてやってみる)
- 協働して課題を解決する子ども (伝え合う)
- 自己の考えを広げ、深める子ども (ふりかえる・つなげる)

4 研究の重点

今年度もカリキュラムマネジメントを取り入れていくことから全教科を対象に研究を行う。研究を深めるため、以下の3点を重点にして、日常の授業や研究授業に取り入れ、めざす子どもの姿にせまる手立てを事後研究会や全体会で探っていく。

- ① 考えてやってみる
- ② 伝え合う
- ③ ふりかえる・つなげる

授業づくりを進める中で「目標－指導－評価の一体化」を意識した授業づくりを進めながら、上記の①②③を取り入れ、児童が各教科の見方・考え方を働かせ考え、仲間に伝え、自己の学びをふりかえり、次の学びへつなげていくことができるようにしたい。特に学習課題について粘り強く考えることを意識して取り組ませていきたい。そして、それぞれのウェルビーイングの考え方を認め、それが実現できるような校内研究を進める。

5 研究の内容と方法

- (1) 授業研究を通して実践研究を行う。研究教科は全教科とし、授業実践を行う。様々な場面での実践を通して、日常に生きる研究にしていく。
- (2) 学習の基盤となる資質・能力を育成するために、カリキュラムマネジメントを進めていく。
- (3) 理論研究を通して、学習活動のあり方を探る。文献や先進校の実践に学ぶ。
- (4) 教科の見方・考え方を働かせながら、児童の課題を解決していく授業づくりに努める。
- (5) 振り返りに書かせたい言葉や考えをもとに、単元計画や授業を作成していく。PDCAサイクルを生かした学習状況の適切な評価と、個に応じた支援の充実に努めた単元計画を立てる。
- (6) ICTを活用して児童の考えを可視化して交流を図ったり、振り返りの記録や管理に生かしたりし、児童の学びが深まる活用の仕方を共有していく。
- (7) 研究授業を含め、OJTの形で全員が授業公開や模擬授業を行ったり、研修会を主催したりする機会を設ける。

6 カリキュラムマネジメントの推進

一昨年度よりカリキュラムマネジメントを推進して取り入れてきた。カリキュラムマネジメントの利点である教科横断的なつながりを大切に、全教科を対象に研究に進めてきた。子どもたちに付けたい資質・能力を明確にして、年間を見通し、教科横断的な学習を充実させることで、教育活動の質の向上を図ろうと取り組んできた。

全職員で共通理解を図りながら、子どもたちに付けたい資質・能力を意識してカリキュラムマネジメント表を作成した。カリキュラムマネジメント表を作成することで、意図的に活動を仕組んだり、日々の授業を関連付けたりすることができるようになってきた。また全職員で行うことで、同僚性も高まり、それぞれの学年についても理解が深まってきている。

7 研究組織

全体会		
研究推進委員会 ①企画、立案、連絡調整、研究会進行 ②公開研究発表会に向けての提案・準備等 校長、教頭、教務 小野（研究主任）、大野（副研究主任、カリマネ主任、中学年） 安部（低）、寺島（特）、芳賀（高）		
学年部会 教科部 ・指導案検討、実践研究		
【下学年部】 安部 佐野 青野 松村 仁瓶 佐藤 金子 内山 青木 竹田	【上学年部】 大野 後藤 小野 阿部 田畑 芳賀 黒田 戸田 大浦	【特別支援部】 寺島 高橋翼 稲毛 教頭 大塚

8 年間計画

月 日	種 別	学 級	教 科	内 容
4 / 1 4 (月)	推進委員会			令和7年度の研究の計画
4 / 2 1 (月)	全体会			研究計画、事前研・事後研のもち方など
5 / 2 7 (月)	カリマネ			カリキュラムマネジメントの進め方
5 / 7 (月)	学年部会			第1回事前研究会
5 / 1 9 (月)	全体会	5 - 2	学活	第1回授業研究会
		2 - 2	国語	
6 / 1 3 (金)	学年部会			第2回事前研究会
6 / 1 8 (水)	学年部会			第3回事前研究会
6 / 2 7 (金)	全体会	3 - 1	国語	第2回授業研究会
		4 - 2	国語	
7 / 7 (月)	全体会	6 - 1	図工	第3回授業研究会
		1 - 1	図工	
		すずかけ わかわし	自立活動	
7 / 3 0 (水)	カリマネ			カリキュラムマネジメント表作成
8 / 6 (水)	全体会			校内研究研修会
8 / 2 1 (木)	学年部会			校内研究指導案検討会
9 月中	学年部・全体			校内研究指導案検討会 環境整備・掲示
1 1 / 7 (金)	高畠町公開研究発表会（高畠小）			
1 2 月下旬	カリマネ			2学期の実践の反省、3学期に向けて（3学期カリマネ作成）
1 / 中旬	推進委員会			今年度の反省、来年度に向けて
1 / 2 3 (金)	全体会			年間の実践の反省、来年度に向けて
2 月下旬	カリマネ			3学期の実践の反省

※授業づくりについては、学年部内や学年部や教科部等、枠を超えて柔軟にチームを組織して話し合っていく。

※小研については、全体研で授業をしなかった担任の先生方に12月まで実施していく。日程については、ある程度の期日を決定し、週案に記載していく。授業については、できるだけ参観するようにしていく。（小研の授業の事後研は行わないが、授業の感想を用紙に記入して授業者へ伝える。）

研究の全体構想

